

編集後記

◆編集長を拝命し、最初の学会誌をお届けします。気楽な気持ちで編集長をお受けしましたが、編集作業がこんなに大変だとは思いませんでした。中島前編集長には頭が下がります。本号は、時間の関係上(当初の発行予定日を大幅に遅れたため)自らコンピューターに向かって編集作業を行いましたので、多々不行き届きの点があると思いますがご容赦下さい。

◆既にお気付きのように、本号から表紙を新しくしました。デザイナーに時間をイメージした表紙を作るように依頼し、幾つかの案を作ってもらいました。そのなかから、何人かの方々の意見を参考にして、この表紙を選びました。時計の針が指す時刻に何か意味を持たせようかと考えましたが、いい考えが浮かびません。従って、時計の時刻には、全く意味がありません。何か良いアイデアがありましたらお寄せ下さい。

◆本号の総説は、ヒトの概日リズムの病理について、6名の方々に執筆をお願いしました。企画、取りまとめは、国立精神・神経センター精神保健研究所の内山真先生です。大変内容のある論文で、これからもこのような総説をどしどし載せて行きたいと

思いますので、投稿の方よろしく願います。また、海外で活躍する若い時間生物研究者が増えていきます。海外だより、国際学会情報など掲載してゆきたいと思いますので、情報をお持ちの方、編集局までお寄せ下さい。

◆本号から、総説をお書きいただいた方に別刷りを差し上げることにしました。学会誌としての学術的評価を上げることにつながればと思います。また、学会誌普及の機会を得るために、ISSN(国際標準逐次刊行物番号)に登録しました。ISSNは、国際標準化機構が定める国際規格の識別番号で、逐次刊行物に付与されるものです。

◆最後に、これからの編集局の方向性について一言。高橋会長の巻頭言にもありますように、学会発展のために学会誌の充実が不可欠です。現在年2回の発行ですが、いずれ、発行回数を増やして行く必要があるでしょう。去年の運営委員会でも、学会誌の編集に関して編集委員会を構成してより充実した会誌にするように求められました。現在、諸般の事情で編集委員会を構成するに至っておりませんが、早急に委員会を立上げねばと思っています。編集委員会、編集方針などについてご意見などありましたら、お寄せ下さい。

(海老原)

日本時間生物学会誌 Vol.5, No.1 (1999) 平成11年5月発行

発行:日本時間生物学会

(事務局) 〒464-8602 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院理学研究科 生命理学専攻内
TEL:052-789-2498/FAX:052-789-2963

(編集局) 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院生命農学研究科 応用分子生命科学専攻内
TEL&FAX:052-789-4066